

古河電気工業(株) 事業 IR 説明会 質疑応答録 (要旨)

日時：2024年6月5日(水) 14:30-15:15

内容：エネルギーインフラ事業

説明者：執行役員常務 エネルギーインフラ統括部門長 西村 英一

電力事業部門長 八木 幸弘

産業電線・機器事業部門長 徳田 繁

陪席者：副統括部門長 石垣 一郎

企画統括部長 新関 哲寛

執行役員 財務本部長 青島 弘治

Q：建販向けの汎用電線需要がひっ迫している背景と会社業績への影響は？また電力ケーブルも含めて25中計目標とその先の需要環境について教えてほしい。

A：23年度後半から特に汎用電線需要が旺盛で、ひっ迫している状況が続いていたが、足元は落ち着いてきている。FY23Q4~FY24Q1にかけて、代替品としてらくらくアルミケーブルの一時的需要があったが、当社においては2022年より国内の建設・電販市場向けの汎用電線事業を持分法適用関連会社であるSFCC(株)に移管しており、エネルギーインフラ事業の24年度業績に直接の大きな影響はない。

25年度に向けては、電力ケーブルもOFケーブルの更新需要が2040年頃まで続く見込みであり、これらの受注に加えて再生可能エネルギー向けの案件もあることから、想定通り進めていけると考えている。

Q：中国における事業は不振が続いているのではないかと？ROICの向上のためにどのように改善を進めていこうとしているのか？

A：中国の地方経済は停滞が継続しており、想定どおりの回復になっていない。付加価値が高く競合社も少ない超高压のケーブルに注力するなど、強みを活かした拡販活動を地道に続けながら、損益改善を図っていく。

Q：国内の電力ケーブルの受注状況は堅調とのことだが、予期せぬコストアップも発生しやすい状況下で、きちんと採算のとれるメカニズムになっているのか？

A：原材料、輸送費、労務費等の上昇に伴って採算が悪化することへの対応としては、契約の段階から変動要因を織り込む場合と、コスト上昇後に交渉を進める場合と両方あるが、どちらにしても製品・サービスの価値をお客様に認めていただき、ご理解をいただけるように進めている。

Q：産業電線・機器事業において、戦略製品として挙げられている施工性に優れたアルミ導体のケーブル(らくらくアルミケーブル)の売上が増えていることは理解したが、その他の戦略製品(プラグインコネクタやその他の終端接続部等)の売上に占める割合はどのくらいか？

A : プラグインコネクタとケーブルの組み合わせで年間 5 億円程度の売上。これを今後さらに伸ばしていく。P24 に記載した新しい端末製品は発売したばかりなので売上が増えるのはこれからとなるが、まずは数億円規模の売上を目指している。

Q : 2018 年度から 150 億円の投資計画の元で電力ケーブルの製造能力は約 2 倍まで増え、ほぼフル稼働しているとのことだが、今後好調な受注が続く中では、ケーブル製造能力だけではなく、工事施工能力の増強が必要なのではないか？ 2030 年頃を見据えて、どこまで売上を伸ばす余地があると考えているか？ また、施工能力アップに向けた労働力確保の手は打っているか？

A : ご指摘のとおり、次の課題は施工能力を上げていくことと考えている。地中線と海底線に対応は異なるが、地中線の施工能力は、積極的な採用活動による自社の直営班の増強と、協力会社との協業範囲の拡大とを合わせて強化を進めている。海底線の布設については、海事会社とのパートナーシップ強化で、旺盛な需要に対応する。また、洋上風力発電事業発展のために様々な業態の会社との協業で応えていく。

Q : 国内の取組みがメインだと思うが、アジアでもデータセンタの増加による電力不足への課題が出てきている中で、海外で収益機会を拡大する余地はあるか？

A : 海外市場に対しても常に窓口は開けている。実際の受注については、ケーブル製造能力と施工能力、採算性を勘案し判断していく。

Q : 電力事業の国内・海外比率はどのくらいか？

A : 23 年度はほぼ国内市場向け。まずは国内市場の需要拡大にキャッチアップしていくというのが 25 中計期間での方針。

Q : 国内における半導体工場やデータセンタの建設ラッシュ等の事業環境を踏まえ、25 年度の中計目標値にはどのくらい上振れ余地があるか？ また 24 年度から 25 年度への増収増益の前提についても教えてほしい。

A : 電力事業のメインターゲット市場のうち、国内の超高圧地中線については、お客様から出された長期にわたる OF ケーブルから CV ケーブルへの更新計画に基づいている。加えて、再エネ関連についても、いくつかの案件を見込んでおり、案件の延期について注視は必要なものの、全体として目標値の確度は高いと考えている。産業電線・機器については、データセンタ建設に伴うプラグインコネクタ付きケーブルやらくらくアルミケーブルの需要の伸びに上振れ余地があると考えている。

Q : AI 関連のデータセンタ建設計画が国内で発表されている。これに伴う電力の需要増が電力ケーブルの需要増につながるのではないかとと思われるが、どう見ているか？ またその場合、電力ケーブルよりも産業電線・機器関係のケーブルの需要増の方が期待できるのか？

A： 超高圧の電力ケーブル、プラグインコネクタ付きケーブルといった産業電線・機器関係のケーブル両方の需要増が見込まれる。データセンターが増えることによる電力不足解消に向けて、広域連系線のような再生可能エネルギーで発電した電力を都市部に送るための系統整備や、電力インフラシステムの強靱化が必要となってくる。従来の架空送電線に加え、地中や海底ケーブルで電力を都市部に送る局面も増えてくるため、当社としてもこの収益機会をしっかりと捉えていく。

以上